

## 神戸市聴覚障害者福祉施設建設募金趣意書

皆さまの多大なご支援のおかげで建設できました特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」（洲本市中川原）の開所から11年が経ちました。「一人ひとりを大切に」「共に生きる」を同施設の理念として、高齢聴覚障害者のかけがえのない人生に寄り添い、学び合いの実践を続けられています。

そんな中、住み慣れた地域で暮らしたいという兵庫県下の聴覚障害者のもう一つのニーズが見えてきました。2013年には公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会が中心となって約1,000人の聴覚障害者・児を対象に阪神淡路大震災から18年が経過した「兵庫県における聴覚障害者の実態と生活ニーズ調査」を実施しました。

同調査の結果、神戸においても「身近なところにいつでも行ける施設がない。」「災害時に安心して行ける場所がない。」「困った時に相談できる場所がない。」「近所つきあいがいい。」「家族とのコミュニケーションがとれない。」「学校で会話の内容がわからない。」「家庭でも学校でも職場でも一人ぼっち。」と多くの聴覚障害者がどこにいても孤立している姿が浮かびあがってきました。

重複聴覚障害者や増加する高齢聴覚障害者の生活施設、難聴者・中途失聴者、言語障害等の「再び人と会話を楽しみ触れ合う喜びの場」、聴覚障害児の放課後デイサービス、神戸市内にはこれらの施設がありません。

支援の手が届かない人たちの生きる力となる「居場所」と「相談支援」などの施設整備を進めていきたいとの思いを強くし、2015年7月に当事者団体、支援団体、関係者らが神戸市聴覚障害者建設推進委員会を立ち上げました。

委員会では「きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT(プロジェクト)」として、施設建設に向けた活動を進めています。

2017年5月には淡路ふくろうの郷を運営している社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会が福祉施設建設用地を神戸市長田区内に購入しました。周辺の高齢者などの生活ニーズも反映する事業を予定しています。

こうした施設建設には国庫補助以外に、多額の自己資金が必要です。当面一億円の募金を目標としています。

つきましては、どうか聴覚障害者の状況と私たちの願いをご理解いただき、共に包み合う地域社会の推進に皆さまの参加・応援をお寄せください。

2017年6月1日

神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会

共同代表 岡野安雅（耳鼻咽喉科医師）

〃 柴田 明（元兵庫県立光風病院精神科医師）

〃 藤原精吾（弁護士）

〃 山原愛子（NPO 法人神戸ろうあ協会後援会会長）

委員長 本郷善通（公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会理事長）